



MFIが利益を確保しながら社会的ミッションを達成できるよう、経営方法についての研修も実施

### 貧しくて お金が借りられない人々

銀行口座にお金を預ける、クレジットカードを使う、大きな買い物をするためにローンを組む。日本で生まれ育った私たちにとっては、どれも当たり前のこと。しかし開発途上国は違う。銀行口座を持って、安全にお金を管理する手段がない。現金をベッドの下に隠す人、宝石などに変えて持っている人もいる。

貧しいからこそ、お金を借りなければならぬのは当然。しかし、口座開設に伴う書類をそろえることができない



国際協力の担い手たち

## NPO法人 プラネットファイナンスジャパン

### マイクロファイナンスで 農家の人々に光を

貧困層向けに小口融資を行う「マイクロファイナンス」。開発途上国でその普及に取り組むNPO法人プラネットファイナンスジャパンは、JICA草の根技術協力事業を通じてフィリピンで農家の人々の生活向上に向けた支援を展開している。



フィリピン  
— ミンダナオ島



MFIを利用している人々の意見を聞き、より利用しやすい商品の開発に生かす



プロジェクトの一環で支援しているMFIの一つ、バンサラン協同組合が人々へ融資を行う

### ミンダナオの農家に 新しい選択肢を

また、フィリピン南部のミンダナオ島でも活動中。長年の紛争によりインフラが荒廃し、国内で最も貧しい地域の一つだが、ここでJICA草の根技術協力事業を通じて2011年から

「ミンダナオにおける零細農民の金融アクセス改善プロジェクト」を実施している。

フィリピンのMFIは都市部に集中する傾向にあり、地方部では普及が十分ではない。「二番の理由はアクセスの悪さ。道路状況は悪く、交通手段も限られるために移動に時間がかかる。そんな地域にお金を持つていくのは、MFIにとってリスクが大きいのです」。この地域で活動する約40のMFIを総括するネットワーク機関

かつたり、手数料を払えないといった理由から金融機関を利用できない人も多い。その代わり、年率200%といった高額の金利が発生するが、少額を誰でも手軽に借りられる高利貸を頼ることに。しかし、法外な利子で借金返済に苦しめられ貧困から抜け出せなくなってしまう。

貧しくて、お金をきちんと管理できる方法はないか。そこで誕生したのが、バングラデシユのグラミン銀行に代表されるマイクロファイナンス機関（MFI）。短期で少額の資金を低金利で融資し、人々はそれを元手に雑貨屋の運営、洋服の製作、野菜の販売といった零細ビジネスを始めることができる。近年、アジアを中心に世界に広がっている注目のビジネスだ。

MFIの融資は高利貸より金利は低い。日本の銀行よりは高い場合が多い。貧困層の生活向上を理念に掲げ、ビジネスとして金融サービスを持続的に提供するために必要な利益は確保しなければならぬからだ。こうしたMFIを支援しているのが、NPO法人プラネットファイナンスジャパン。フランスの国際NGOプラネットファイナンスの一組織として、ケニアやインドネシアでの農村開発プロジェクトなどを実施するほか、日本でも大学での講演や勉強会を通してマイクロファイナンスへの理解を促し、支援につなげるべく啓発活動を行っている。



現場に足を運び、農家の人々のニーズを把握するためにインタビューを行う長友さん(右)

ミンダナオ・マイクロファイナンス・カウンシルのジェフェリー・オルドネスさんは説明する。そこで、同機関とプラネットファイナンスジャパンは支援対象として選ばれた2つのMFIがより良いサービスを提供できるように運営能力強化を支援している。そうすることで、この地域の人口の3分の1を占める農家の人々がマイクロファイナンスを利用しやすくなる。

すくなることを目指しているのだ。まず力を入れたのが、農家向けマイクロファイナンス商品の開発。「一般的に、マイクロファイナンスは毎週少額ずつ返済するシステムが多いのですが、農家は種まきから収穫、販売を経て収入を得るまで数カ月かかる。返済を数カ月単位にした商品をつくれれば、もっと利用しやすくなるはずだと考えたのです」とプロジェクトマネージャーの長友留奈さんは話す。現在、MFIとの共同調査を踏まえて人々のニーズに沿った金融商品の設計・導入を検討しているところだ。

また、農家の人々の意識向上を図ることも重要だと考えている。帳簿を付せずにお金の貸し借りをしたり、預金の習慣がない人も多いからだ。そこで、ミンダナオ・マイクロファイナンス・カウンシルの職員を対象に、予算の立て方、預金のメリット、金融商品の種類などについて伝える研修を行っている。「私たちが直接教えるのではなく講師を育てることで、今後、彼らにより多くのMFIに知識を広めていくことができます」と長友さんは話す。

マイクロファイナンスを効果的に利用することができれば、換金作物を栽培したり、肥料を使って生産性を高めることができたりと、農家の人々の生活の「選択肢」が増えるはずだ。ミンダナオ島の人々の将来を見据え、長友さんたちの挑戦は続く。